

2018年9月1日

特徴ある ICU の財政について

国際基督教大学
財務担当常務理事
新井亮一

要約～優れた米国の大学とよく似た ICU の収入構造～

日本の大学の財政状況を事業活動収支計算書¹の教育活動収支で見ると、授業料と補助金等の収入と教育研究支出は概ね均衡しています。逆に、この収支が赤字である大学は、一般的に財政の健全性に問題があるとされています。

一方、海外、特に米国の有力私立大学は、授業料・補助金等の収入以上のコストをかけて充実した教育を提供し、それによって生じた教育活動収支の赤字は、寄付金とそれを元にする基金の運用益で補填しています。

ICU の教育活動収支は、主に少人数教育により質の高い教育を行っているため学生一人当たりの費用が大きくなり、2017年度の実績では74億円の収入に対して88億円の支出と、15億円弱の支出超過となっています。これをもって、一部のマスコミは、ICU の財政を問題することがあります。しかし、献学以来、ICU の教育活動収支の赤字は、米国の大学と同様に、寄付金とそれを元にした基金の運用益が補填してきました。つまり、ICU の教育活動収支の赤字は、米国型の財務構造に起因するもので、財政状況に問題がある訳ではありません。ICU の財政を問題視する一部マスコミの報道は、大学財政への適切な理解を欠いた誤解に基づくものです。

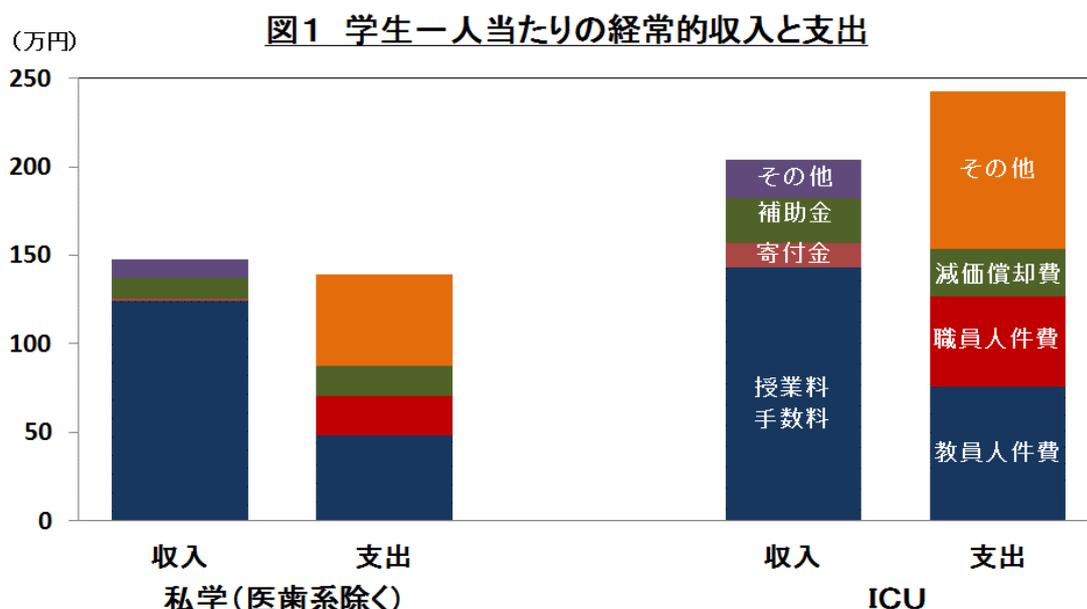
少人数教育を貫くための教育事業の「赤字」

ICU の教育面での最大の特長は、少人数教育です。よく「ICU は学生数が増えて、少人数教育ではなくなったのではないか？」という声が聞かれます。確かに学生数は昔に比較して増えましたが、それに伴い教員数も増えており、教員一人あたりの学生数は20名弱と、70年代から概ね横ばいです。首都圏の大規模私立大学の中には、この比率が40名を超える学部もある中、ICU では昔ながらのきめ細かい指導がなされています。また、これはあまり知られていませんが、ICU は伝統的に職員数も他の大学に比較して多くなっています。これにより、授業だけでなく、学修、研究、就職活動、課外活動、海外への留学、海外からの留学、カウンセリングなどの支援体制が充実しています。

一方で、このような手厚い教育体制を維持するための費用は、膨大なものとなります。

¹ ICU の決算書類は、ホームページ <https://www.icu.ac.jp/about/info/> で確認できます。

図1は、学生一人当たりの収入と支出を示したものです。支出は、私立大学平均の139万円に対し、ICUは243万円と1.7倍を超えています。この背景には、前述の少人数教育と充実した学生支援体制がありますが、さらにそれに加えて、他大学に比較して充実した奨学金²もあります。一方で、収入をみると、授業料・手数料収入は、私学平均の124万円に対し143万円と1.15倍です。昔と違ってICUの学費は他大学比で高くなっていますが、それでも支出に比較して小さな差に留まっています。教育活動における授業料以外の主な収入は寄付金と補助金です。寄付金は、大学及び学生の支援に熱意を持っていただいでい



る同窓生が多く、私大平均より高水準になっています³。また補助金も、スーパーグローバル大学創成支援事業に採択されるなど高水準となっています。しかし、それでも授業料・手数料、寄付金、補助金の合計は、182万円と支出に遠く及びません。これが、時おりマスコミが問題視する教育活動収支の赤字の背景です。

教育活動の赤字を補う基金

ICUの少人数教育は今に始まったものではなく、献学以来の伝統です。さらに、昔は今よりはるかに授業料が安かったため、大学の教育活動収支はより大きな赤字でした。1980年代までは、学生一人当たりで卒業までの4年間で平均して現在の貨幣価値で300万円ほ

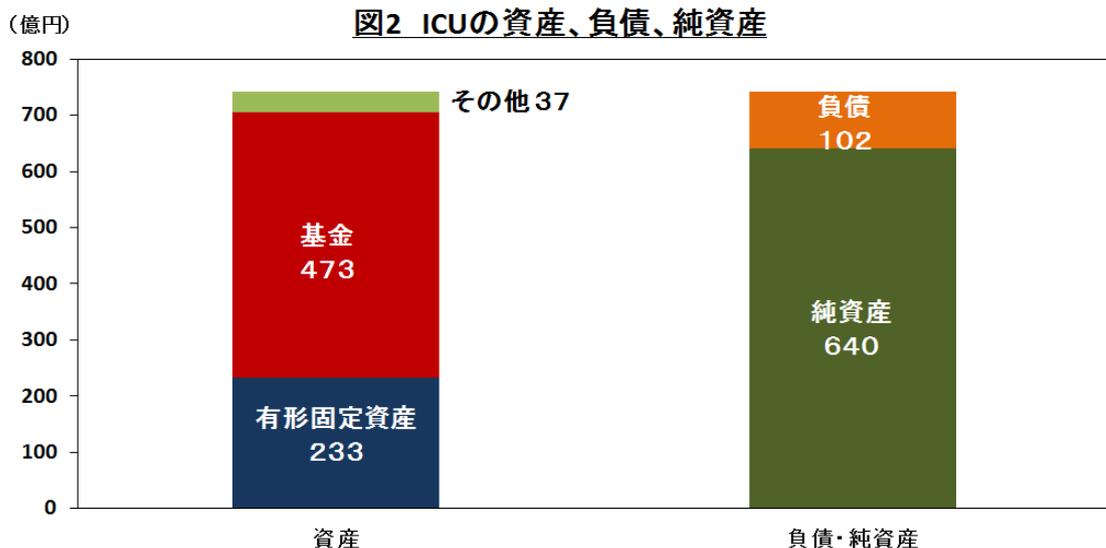
² ICUの給付型奨学金の総額は、学生納付金のおよそ8%と、医歯系を除く私立大学の平均4%弱を大きく上回っています。この原資には、後述の基金の運用益が充当されています。

³ 2016年度の寄付金の学納金収入に対する比率では、医歯系を除く私学平均が1.3%に対し、ICUは6.5%。

どの支出超過でした。これだけの赤字が続けば、献学以来 65 年間も存続することは不可能ですが、それを補ってきた財源が基金の運用益です。

ICU の献学に当っては、当時の一万田日銀総裁を会長とする建設後援会の精力的な募金活動により、日本全国から 1 億 6,000 万円にも上る寄付金が寄せられました。現在でも大学図書館に当時の募金活動の記録が展示されていますが、寄付者の中には、財界人だけでなく、おやつ代を寄付した小学生やアルバイト収入を寄付した都内の私立大学の学生もいました。この献学時の寄付により、キャンパス用地として 464,000 坪(東京ドーム 22 個分)の土地を三鷹に購入しました。食糧難の当初は、この土地の一部が農場として活用されましたが、それが後にゴルフ場に転用されました。そして、このゴルフ場(東京ドーム 9 個分)は、1975 年から公園用地として東京都へ売却され、その売却代金(1975 年度から 4 年間の不動産売却益の総額は 320 億円)が基金となり、その運用益が教育活動収支の赤字を補填して以後の ICU の財政を支えることとなります⁴。図 2 は、2017 年度の ICU の貸借対照表ですが、この基金が、現在では時価ベースで 473 億円⁵と、総資産の過半を占めています。

ところで、「ICU は赤字が続き、大きな借金を抱えている」という心配を聞くことがありますが、負債は 102 億円で、そのうち銀行等の金融機関からの借入金は約 70 億円⁶と、総資産の 10%以下であり、極めて健全な財政状況となっています。



注) 2017年度。基金及び純資産は、保有有価証券の評価損益を反映した時価基準

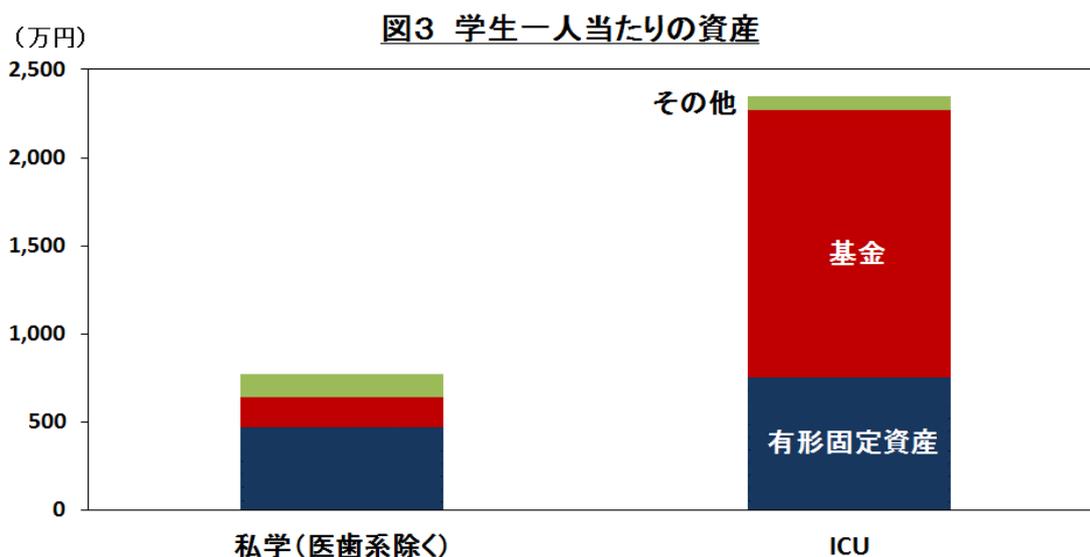
⁴ 献学から 1975 年までの収支計算書を見ると、不動産売却以前の教育活動収支の赤字は、寄付金と献学時に作られた基金の取り崩しにより補填されていたことが判る。

⁵ 2017 年度の基金の時価残高のうち、評価益は 57 億円で、貸借対照表計上額は、415 億円である。

⁶ その他の負債は、退職給与引当金、前受金、未払い金など

国内他大学と比べて際立つICU基金

このICUの資産を私立大学と比較したのが図3です。比較を可能にするため、実額ではなく、学生一人当たりのデータにしていますが、ICUはこの基金の存在が大きな特長となっており、その額は学生一人当たりおよそ1,500万円となっています。これは、仮に基金から5%の運用利回りで収益を得た場合、学生一人当たり年間75万円の予算を、授業料などの通常の教育活動収入とは別に獲得することができることを意味します。一方で、私立大学の平均では、学生一人当たりの基金額はわずか166万円であり、5%の運用収益を得たとしても、年間で8万円にしかなりません。この大きな基金の存在が、ICUが少人数教育を実践でき、長期の教育活動収支の赤字にも耐えられる理由です。逆に、この基金が無ければ、教育事業収支の赤字を埋めることができず、財政は破綻の危機にさらされます。つまり、ICUの財政の悲観論は、この基金の存在を無視したものといえることができます。



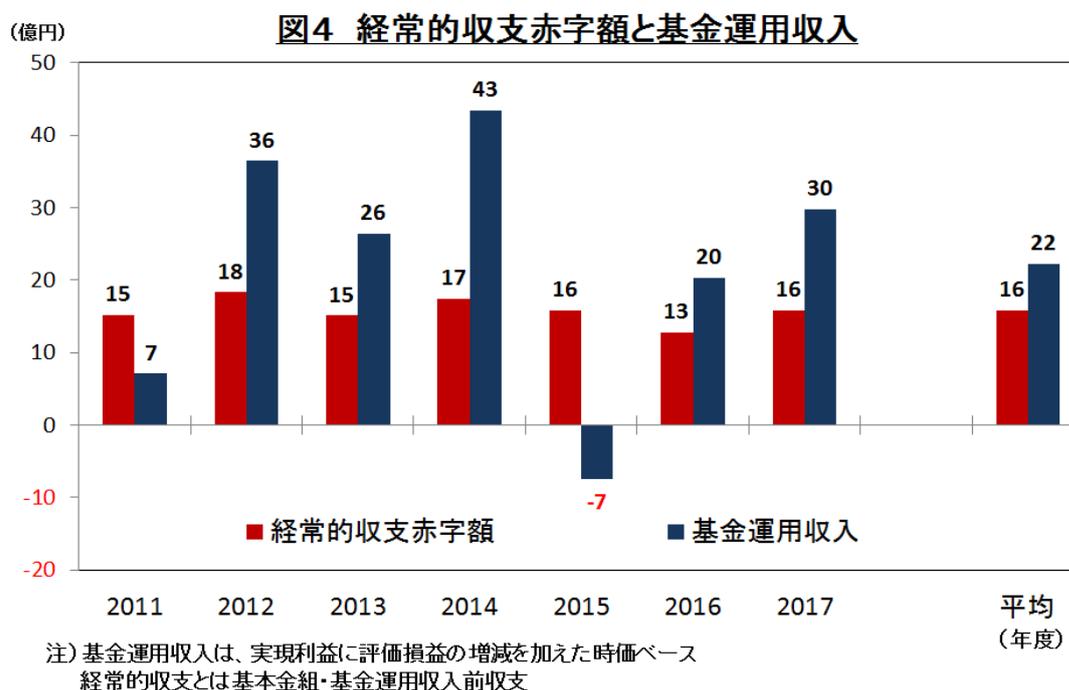
注) 2016年度。ICUは保有有価証券の評価損益を反映した時価基準。法人の資産を大学学生数で除して算出(出所)ICU、日本私立学校振興・共済事業団『今日の私学財政』

学生納付金の不足分を補う投資収入

以上、述べてきたように、ICUの財政は、教育活動は少人数教育により恒常的に赤字であり、それを寄付金が原資となっている基金の運用で賄うという構造になっています。従って、長期の財政の健全性を見る上では、赤字を相殺するのに十分な運用益が出ているか否かが重要となります。そこで、この赤字額と基金の運用益⁷を比較したのが図4です。2011

⁷ ここでの運用益は、消費収支計算書及び事業活動収支計算書に記載される簿価ベースの実

年度から 2017 年度までを示していますが⁸、基金運用前の収支差額の赤字は毎年 16 億円程度で推移しています。一方で、基金の運用益は、市場環境が良かった 2014 年度は 43 億円の収益、逆に英国の EU 離脱を支持する国民投票などがあり株式市場が下落した 2015 年度には 7 億円のマイナスと、市場動向により変動しています。しかし、過去 7 年間の実績をならずと平均で 22 億円の収益となっており、経常収支の赤字額のおよそ 16 億円を上回っています。この期間の累計では収入が赤字額を 47 億円の余剰となり、教育活動収支の赤字を基金の運用益で補っていることがわかります。



ICU の財務構造は米国型

「教育事業の赤字を基金の運用益で補う」という財務構造は、日本では特殊ですが、米国では多くの大学に見られます。図 5 は、巨額の基金を保有し資産運用に積極的な Harvard と Yale、及び ICU と同様に Liberal Arts の小規模大学である Amherst と Middlebury の財務データです。経常的収支差額⁹は、ここに例示した 4 大学全てで赤字であり、かつその基金運用収入を除く総収入に対する比率も ICU より高くなっています。もし、これらの大学の収支状況を日本式に分析すれば、ICU と同様に財政状態に問題があるように見えます。しかし、その赤字を基金の運用益で補っている点も ICU と同様です。赤字額に対する基金

現損益に、保有有価証券の評価損益の変化を加えた総合収益です。

⁸ 2011 年度以降の時価ベースの運用の状況は、大学のホームページで開示されている決算データで確認できます。

⁹ 各校のアンニュアルレポートに基づき、筆者が算出

図5 米国の大学との財務状況の比較

(百万ドル、億円)	Yale	Harvard	Middlebury	Amherst	ICU
授業料等	345.3	1,054.2	151.2	65.9	50.0
補助金等	768.3	885.5	9.1	1.6	12.1
寄付金	497.1	1,000.4	26.2	41.9	2.4
その他収益	1,314.3	967.2	9.3	29.2	13.1
基金運用収入を除く総収入①	2,924.9	3,907.3	195.8	138.7	77.6
経常費用	3,480.5	4,884.6	273.9	195.0	91.5
経常的収支差額②	-555.6	-977.2	-78.1	-56.3	-13.9
②/①	-19.0%	-25.0%	-39.9%	-40.6%	-17.9%
基金運用収入	3,003.3	2,652.0	134.0	332.9	29.8
総収支差額(純資産増加額)	2,447.7	1,674.7	56.0	276.6	16.0
基金運用資産③	32,735.3	43,275.9	1,102.3	2,857.4	472.5
③/②*-1	58.9	44.3	14.1	50.7	34.0

注) 米国の大学は2017年発表の決算データに基づく。経常的収支差額は、純資産増加額から基金運用収入を除いた収支。ICUのデータは2017年度、高校・研究所等を含めた法人。ICUの基金運用収入、基金運用資産は時価ベース。

の規模は、ICU が 34 倍ですが、米国も同様の規模となっており、大きな基金を保有していることが、経常的収支の赤字の補てんを可能にしていることがわかります。このように、教育環境を充実し結果として不足する資金を基金の運用益で賄う財政運営は、海外の多くの大学が採用していますが、これを実現できている私立大学は日本では極めて少数です。

まとめ

以上、述べたように、ICU の教育活動収の赤字は、教育環境が充実している結果であり、その赤字は、潤沢な基金の運用益により補填されています。この財政構造は、日本においては特殊であり、一部のマスコミから誤解されますが、米国の有力私立大学では一般的に見られるものです。なお、ICU の決算情報の開示は、他大学に比較して充実しており、ここまで述べた ICU の財政状況は、大学オフィシャル Web サイトで入手可能な決算資料で確認することができます。

今後とも、ICU への変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

以上